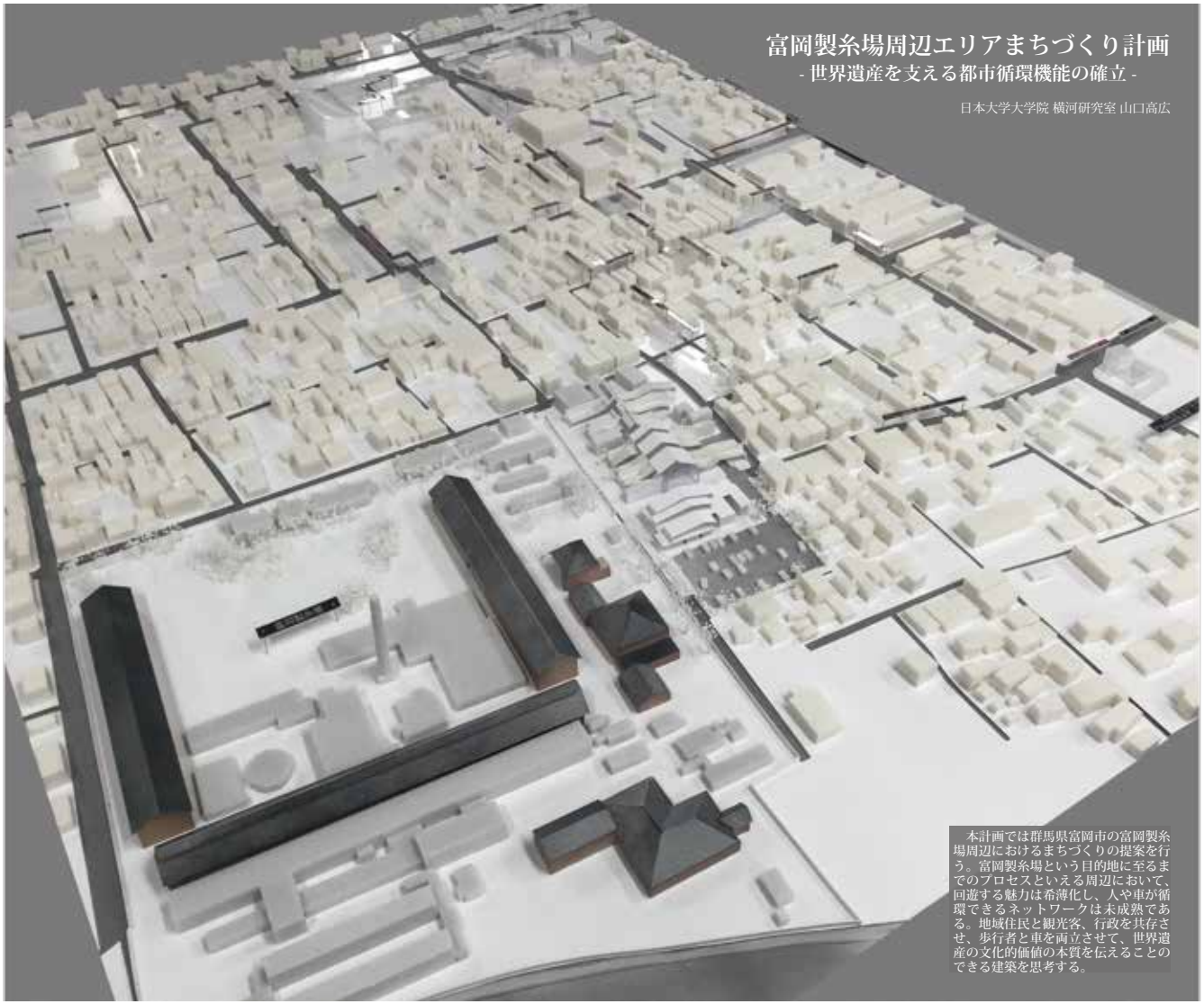
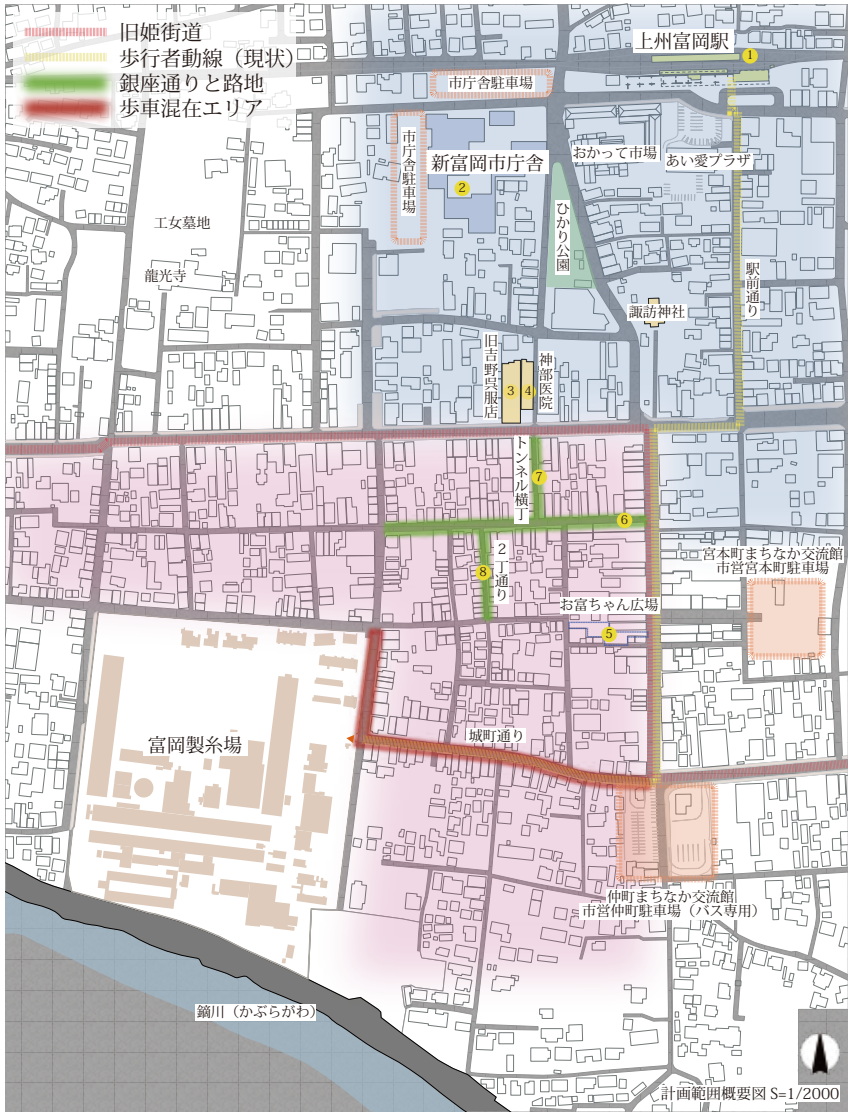
富岡製糸場周辺エリアまちづくり計画

- 世界遺産を支える都市循環機能の確立 -

日本大学大学院 横河研究室 山口高広



本計画では群馬県富岡市の富岡製糸場周辺におけるまちづくりの提案を行う。富岡製糸場という目的地に至るまでのプロセスといえる周辺において、回遊する魅力は希薄化し、人や車が循環できるネットワークは未成熟である。地域住民と観光客、行政を共存させ、歩行者と車を両立させて、世界遺産の文化的価値の本質を伝えることのできる建築を思考する。

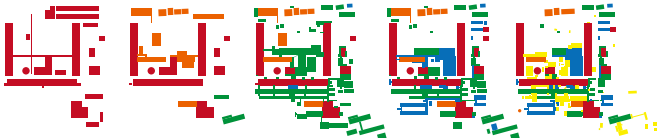


世界遺産として見られるようになった富岡製糸場

登録名称は「富岡製糸場と絹産業遺産群」

自身の解釈に基づく富岡製糸場の文化的価値

「歴史の積層とその痕跡としての増改築」



官営完成期（1875）　三井末期～原初期（1908）　原末期～片倉初期（1939）　片倉前期（1945）　操業停止直前（1986）

周辺エリアに波及しない富岡製糸場の文化的価値とその要因

・維持管理及び修復の遅れ　・観光滞在時間の低迷及び宿泊施設の欠落　・歩車混在

計画対象エリアの調査及び分析

富岡製糸場周辺に散在するその場所の魅力の再発見

1 上州富岡駅　2 新富岡市庁舎　3 旧吉野呉服店　4 神部医院　5 お富ちゃん広場

6 銀座通り　7 トンネル横丁　8 2丁通り

まちづくり計画のビジョン

「地域住民と観光客、そして行政を紡ぐ建築」

官民の境界を取り払い、行政と地域住民、自治体等が共同でまちづくりを進めてゆける建築を考える。そして、地域住民に周辺のまちの魅力を再認識させ、観光客に世界遺産の価値の本質を認識させ、再びこの富岡の地を訪れたいと思わせる。

「富岡製糸場周辺に散在する場所性の再発見」

富岡製糸場とともに生きてきた周辺の街並みのなかに、一度廃れ、失われてしまった文化を再発見し、世界遺産を長期的に支えてゆけるようなまちづくりを考える。

「歩行者と車双方の、都市循環機能の確立」

現状の調査分析及び将来的に変化が予測される都市の動線等を読み解きながら、歩行者と車がスムーズに循環できるためのネットワーク、都市循環機能を確立する。

マスタープラン

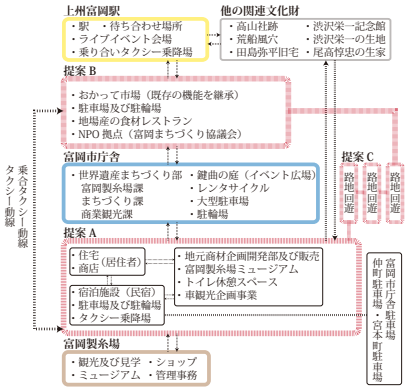
場所性の集約及び再構築とオリジナル空間の追体験

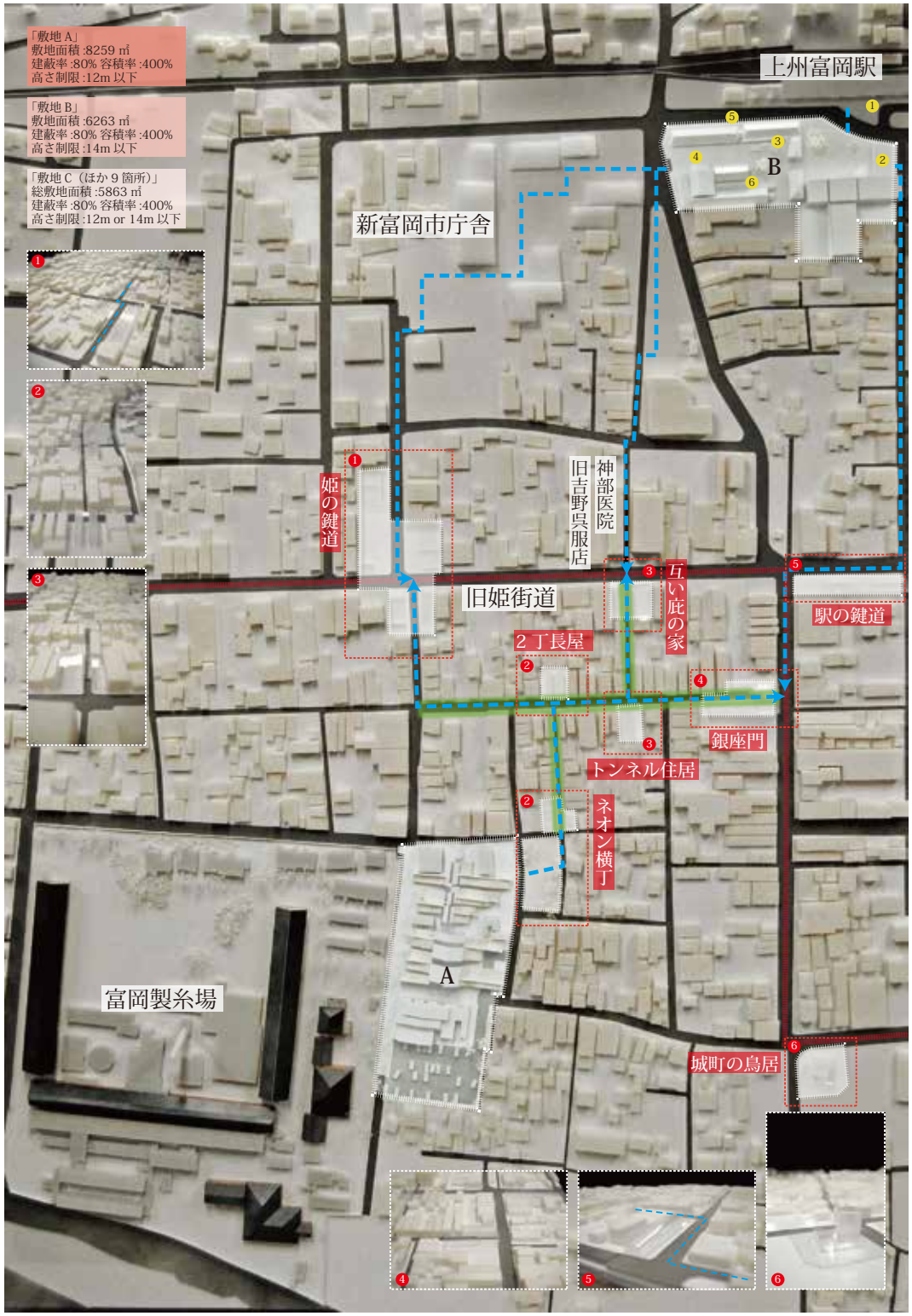
旧姫街道を境に大別される、北側の駅前エリアと南側の木密エリアに、それぞれ敷地 A、B を設けて、その 2 点間を回遊できるルートを提案する。提案 A に集約及び再構築された木蜜エリアの場所性のオリジナル空間を追体験させるように、北側の駅前エリアへと人を導入する。それにより、歩行者も車も駅前と木蜜の富岡製糸場前の周辺エリアを循環させる計画を行う。

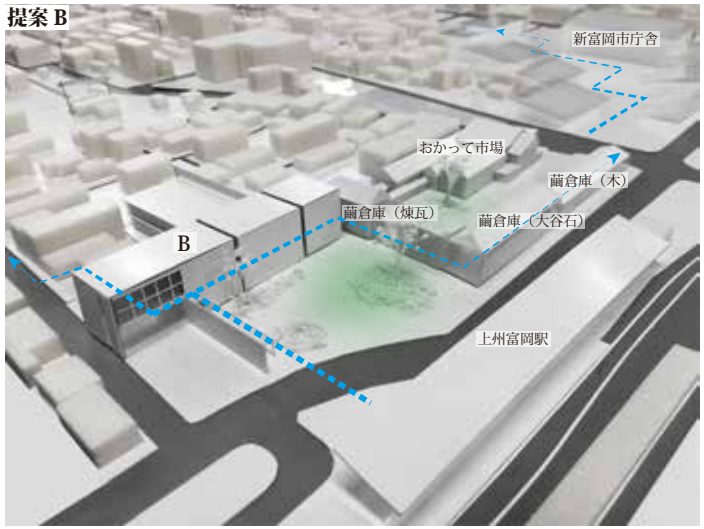
プログラム

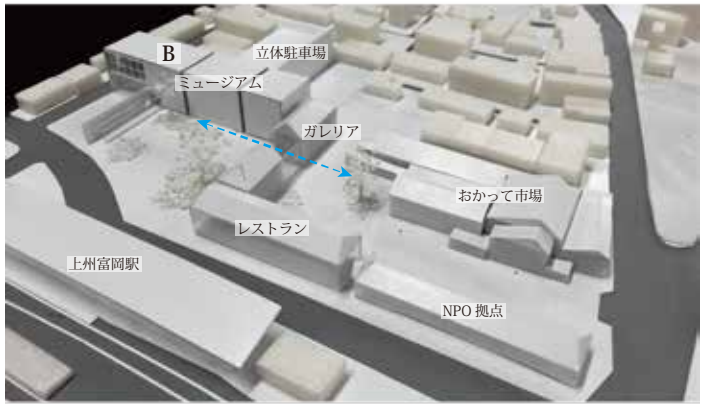
世界遺産保護の間接民営化

本計画では提案 A をメインに、市庁舎や富岡製糸場の機能、また駅や他の観光地からの車動線の拠点或は民宿単位の宿泊機能を、居住者の住宅と商店に複合させる。個々の地域住民にその複合用途を細分化して分譲し、富岡製糸場の保護及び周辺のまちおこしを間接民営的に行う。

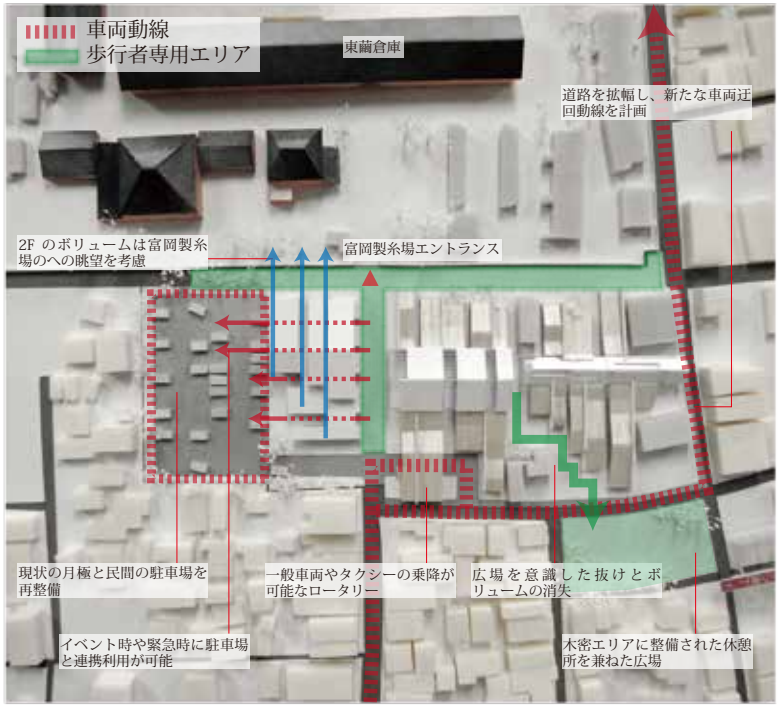




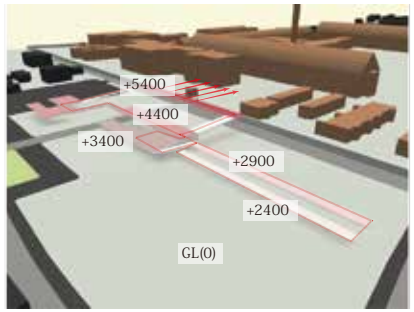




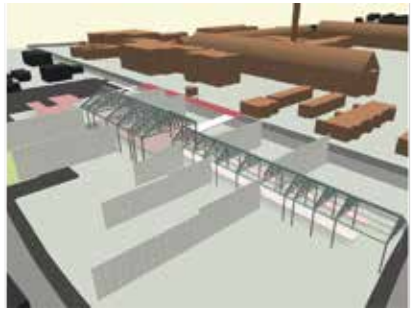
提案 A



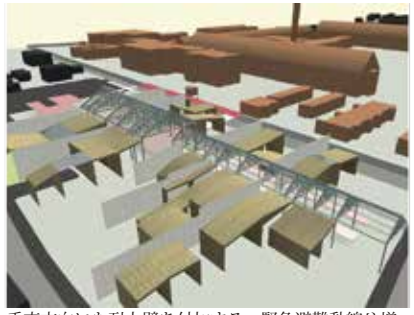
動線及び構造計画



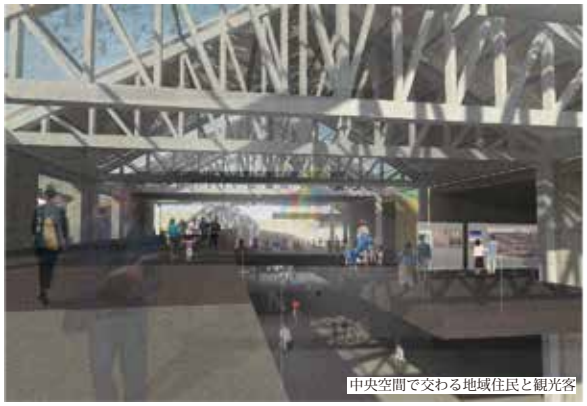
富岡製糸場に向けて上昇していくスラブのレベル。バリアフリーの回遊動線。



耐火被覆板を施した鉄骨のキングポストトラスにSRC 造の耐力壁を付加する。



垂直方向にも耐力壁を付加する。緊急避難動線や増改築に対して合理的な構成。



中央空間で交わる地域住民と観光客

屋外空中通路より臨む富岡製糸場

トラスの小屋組を利用した展望デッキ

場所性による全体構成のプロセス

姫街道に直交する路地とその街並みの変化という場所性を、全体構成のダイアグラムとする。

既存を考慮しながら富岡製糸場の倉庫に平行な中心軸を設ける。

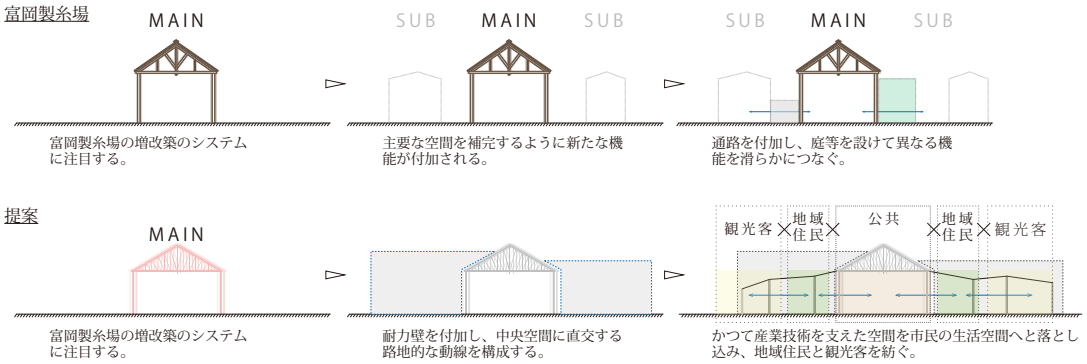
中心軸に直交する路地的な動線を付加してゆく。

付加された路地的な動線に沿って室を付加してゆく。

これらの操作は、各地権者との合意形成をしながら、段階的に計画される。

多様な動線を創出すし、木密エリアに避難動線を確立する。

富岡製糸場の増改築のシステムを踏襲した断面構成ダイアグラム



富岡製糸場の増改築のシステムに注目する。

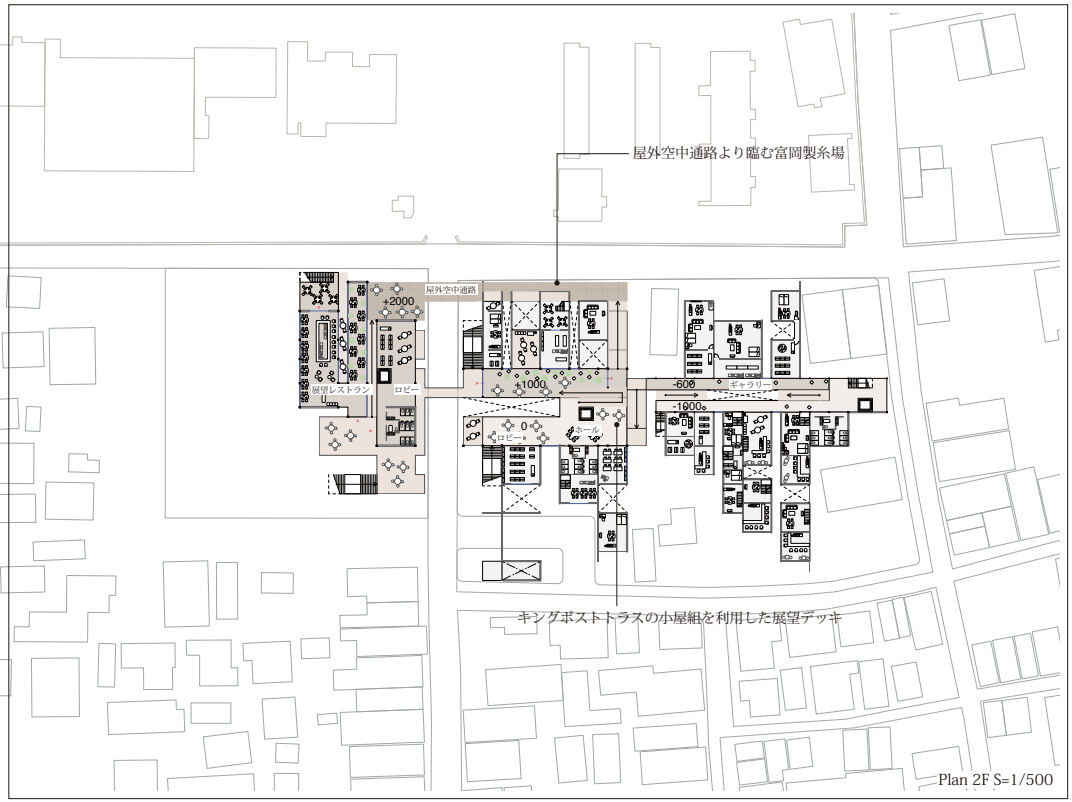
主要な空間を補完するように新たな機能が付加される。

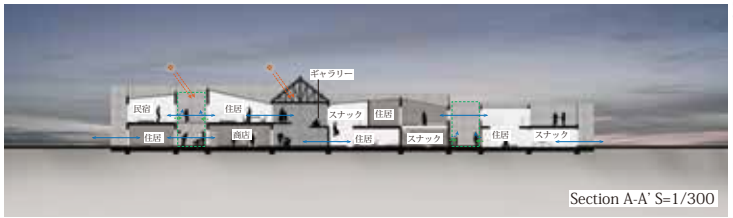
通路を付加し、庭等を設けて異なる機能を滑らかにつなぐ。

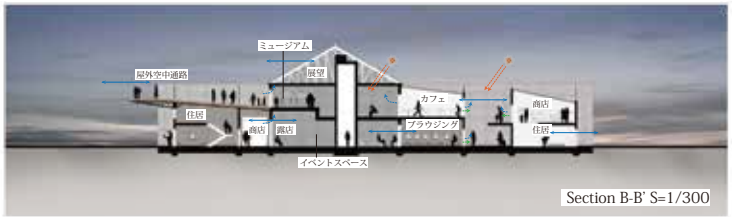
富岡製糸場の増改築のシステムに注目する。

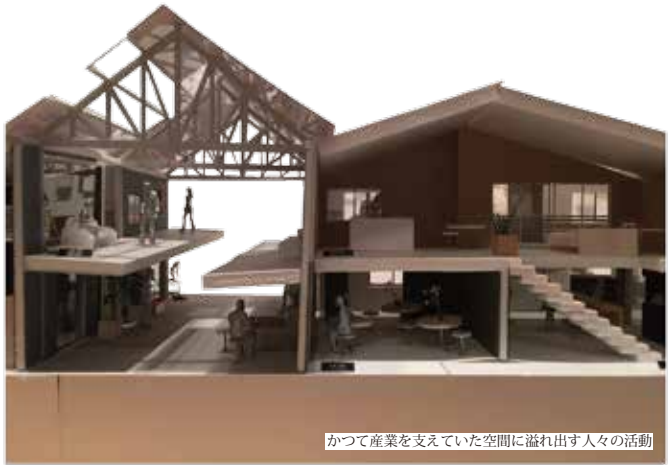
耐力壁を付加し、中央空間に直交する路地的な動線を構成する。

かつて産業技術を支えた空間を市民の生活空間へと落とし込み、地域住民と観光客を紡ぐ。








かつて産業を支えていた空間に溢れ出す人々の活動

中央空間に直交する路地的空間

２丁の道

トンネルの道